

授業改善の工夫	実社会や日常生活との関わりを見いだせる課題設定の工夫
---------	----------------------------

小学校社会科 第4学年	
単元名	「地震からくらしを守る」(東京書籍 4年)
単元のねらい	<p>○自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害の被害状況、関係機関の協力などに着目して、聞き取りや地図や年表、当時の新聞等の資料で調べてまとめ、災害から人々を守る活動をとらえ、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、さまざまな備えをしていることを理解する。</p> <p>○自然災害から人々を守る関係機関や人々の活動について、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養うとともに、学んだことを基に、地域社会の一員として関係機関や地域の人々を守る活動に協力しようとする態度を養う。</p>
単元の流れ	<p>「地震からくらしを守る」(総時数 15時間)</p> <p>(1) つかむ (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害から命を守る取り組みに関心をもつ。 ・地域資料を基に、学習問題を設定する。【事例有】 <p>(2) 調べる (4時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校、関係機関等の取組について調べる。 ・地域の課題を基に、新たな学習問題を設定する。 <p>(3) 深める (5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の備えや対処について考える。 ・自分たちに必要な備えや対処について考える。 ・津波からの安全な避難を考える。 <p>(4) まとめる (4時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、自分にできることは何かを考える。 ・「10年後の自分へ」未来に伝えたいことを考える。 ・分かったことや考えたことを地域へ伝える。
準備物	<p>①写真資料 (東日本大震災発生時の町と現在の町の様子を比較できるもの)</p> <p>②地域の防災マップ</p> <p>③広野町物語</p> <p>※「地域に伝える、未来に残す」という意識をもって学習に取り組み、学んで分かったことや考えたこと等を記述し、累積したもの。</p>

本時のねらい (第2時)

<ul style="list-style-type: none"> ・地域資料に着目させることで、子どもたちから問いを引き出し、単元の学習問題を設定することができる。 ・学習問題に対しての予想を話し合うことで、学習の計画を立てることができる。
--

学習過程

学習内容・児童の活動	時間	○指導上の留意点等 ◆評価
<p>1 地域の神社の写真を見て、先人の工夫に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ神社は、津波があっても流されずに残っているのか。 ・昔の人が石垣を作り、神社を高い場所に作ったから無事だった。 <p>2 東日本大震災の様子や震災後の様子を基に話し合い、問いをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察官や消防官などが救助活動をしている。 ・なぜ防災緑地ができたのかな。 ・どうして防災備蓄倉庫が作られたのかな。 ・どうして警察と消防が合同で訓練しているのかな。 ・どうして町の人がバケツリレーの訓練をしているのかな。 <p>3 学習問題をつくる。</p>	<p>25</p>	<p>○地図を用いることで、神社が海の近くにあり、周辺の家屋は津波によって損壊したことを確認する。</p> <p>○東日本大震災発生時の様子を把握し、人々が協力し合って、様々な活動(対処)をしていることをとらえさせる。</p> <p>○子どもの関心を高め、複数の写真から「人」に着目させることで、地域の人々がどんな取組をしているのか調べたり、考えたりしたいという問いを引き出す。【ポイント】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆資料を基に、考えたことや気になることを問いとしてもつことができている。(発言・広野町物語)</p> </div> <p>○子どもから引き出した問いを、分類するなかで、「誰が」「何をしている」に着目している共通点があることに気付かせ、子どもと共に学習問題を設定する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>学習問題 地震や津波から人々の命を守るために、誰が、どんなことをしているのか。</p> </div>		
<p>4 学習問題についての予想や疑問を話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの家は、食料を備蓄している。 ・私の家は、家具を固定している。 ・ぼくの家では、避難経路や避難方法を決めているよ。 ・学校では、避難訓練をやっているね。 ・学校で引き渡し訓練をやったね。 ・町では、防災緑地の整備をしているらしいよ。 ・町の防災無線で、災害の情報を発信しているね。 <p>《学習計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校、関係機関等の取組について調べる。 ・自分たちにできる取組は何か考える。 ・調べたことや考えたことを家の人や地域の人に伝えたい。 	<p>20</p>	<p>○学習問題について、「家庭」「学校」「広野町」「その他」でどんな取組をしているのか予想させ、意見を交流させることで、自然災害から命を守る取組に関心をもてるようにする。</p> <p>○子どもからの意見については、「命を守るために、それで本当に十分か」「他に取組はないのか」と問い返し、視野を広げて調べていけるようにする。</p> <p>○町の防災マップを資料として提示し、何のために作られたかを予想させることで、町民の安全を守るために町全体で取り組んでいることに気付かせる。</p> <p>○「何を調べるのか」「どのように調べるのか」を話し合うことで、学習問題の解決に向けての見通しを持てるようにする。</p> <p>○地域の取組を調べたり、地域の人に伝えたりする学習を意識させることで、地域と関わる必要感をもたせる。【ポイント】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆「何を調べるのか」「どのように調べるのか」を明らかにし、学習の見通しをもつことができている。(発言・広野町物語)</p> </div>

○地域と関わる必要感のある問いの引き出し方

- 工夫① 地域資料の活用
- 工夫② 調べる対象の焦点化
- 工夫③ 地域課題の明確化

小单元名	「地震からくらしを守る」	单元計画	
【目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解する。 ・学んだことを基に、地域社会の一員として、地域の人々を守る活動に協力しようとする態度を養う。 		
学習過程(時数)	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; font-weight: bold; margin-right: 10px;">広野町物語づくり</div> </div>		
つかむ(2)			<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害から命を守る取り組みに関心をもつ。 ・学習問題を設定する。 <p>工夫① 地震や津波から人々の命を守るために、誰が、どんなことをしているのか。</p>
調べる(4)			<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校、関係機関等の取組について調べる。 ・地域の人のお話を基に、地域の課題をとらえる。 <p>工夫② 自然災害から自分たちの命を守るために、どのような備えや対処が大切なのか。</p>
深める(5)			<ul style="list-style-type: none"> ・町の備えや対処について考える。 ・自分たちに必要な備えや対処について考える。 ・津波からの安全な避難を考える。 <p>工夫③ 地域のために自分たちにできることは何か。</p>
まとめる(4)			<ul style="list-style-type: none"> ・今、自分にできることは何かを考える。 ・「10年後の自分へ」未来に伝えたいことを考える。 ・分かったことや考えたことを地域へ伝える。
【目指す児童の姿】	<p>自助や公助の大切さを自覚し、自分たちの命を守るために大切なことを選択・判断して考え、これからの生活に生かすことができる子どもの姿。</p>		

- ・「工夫①」では、地域の神社の写真や震災前後の町の様子の変化が分かる写真を資料として提示しました。これにより、地域への児童の関心を高め、人に着目して、取組を詳しく調べられる問いを引き出しました。
- ・「工夫②」では、役場の対策については、「直接聞かないと分からないから、話を聞いてみたい」となり、役場の人と関わって、「どのような対処や備えが大切か」を考える問いを引き出しました。
- ・「工夫③」では、保護者アンケートの提示や役場の方のお話を基に、保護者や地域の防災意識の低下を明らかにしました。これにより、危機意識をもった児童から、「地域のために自分たちにできることは何か」考えて、実行したいという問いを引き出しました。